

# 安全作業手順書【調査工】 東名



作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路（豊田IC～春日井IC） 名古屋第二環状自動車道 （名古屋IC～飛鳥北IC,有松IC～上社JCT）
機器工具 ・車両	ラバコン、矢板版	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、 手袋、軍手、安全靴、黄旗（しらすんだー）

見積もり基準をした危険性の評価			
重大性	○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)
(B) ○ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○○ (極めて小さい)	○△ (かなり小さい)	○× (中程度)
△たまに起こる (1年に1回程度)	△○ (かなり小さい)	△△ (中程度)	△× (かなり大きい)
×かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	×○ (中程度)	×△ (かなり大きい)	×× (極めて重大)

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし (様子を見る)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント			リスクの見積り			安全対策（危険度2以下へ）			リスクの再見積り		
			（～なので～になる）			(A)	(B)	リスク	（私達はどうする）			(A)	(B)	リスク
準備工	調査場所確認 事前に調査目的、調査方法、現場を確認する 一宮道路管制センターへ連絡し、情報板点灯依頼をする	①道路形態、車の交通量に注意して	事前確認を怠り、事故となる	△	×	4	必ず書類上の申請日を確認して、作業に臨む	○	○	1				
本作業	出発前に班員各自の役割、車の停止方法等を確認し確実に共有する	調査班員は必ず2名以上とし、作業員の他に監視員を設ける	監視員の配置を怠り、車の接近に気づけず事故となる	△	×	4	①班員は必ず作業員と監視員の2名以上とし、調査目的、現場に応じて適時人数を増やす	○	○	1				
	車両停止 作業車両の停止位置を確認する	車の停止位置の確認	車両を調査箇所の上流に停車させたため、防護車両の役割を果たせず事故となる	△	△	3	①車は調査箇所の上流30m程度（線形による）に停車 ②作業車両降車後速やかにハンドル切り、輪留をする ③作業車両後方にラバコン・矢板を設置する	○	○	1				
	現場移動 作業車両停車後、作業場所まで移動する	車から現場への移動方法の確認	一般車両に対して背を向けて移動して、車の接近に気づけず事故となる	△	×	4	必ず一般車両の動向に注意して作業場所まで移動する 監視員を先頭に一般車両に正対で作業場所まで移動する	○	○	1				
	作業中	作業員・監視員の配置位置の確認	一般車両の監視を怠り、車の接近気づけず事故となる	△	×	4	監視員は作業場所の上流に配置し、一般車両に正対で交通監視を実施（見通しの良い場所であればガードレール等安全な場所で監視を行う） 車の接近等異常を発見した場合はしらすんだー等により作業員に避難指示する	○	○	1				
後処理	作業完了 調査完了後、作業車両まで移動する						作業完了後、監視員、作業員ともに一般車両の動向に注意しながら作業車両まで速やかに移動する	○	○	1				
	車留め、ラバコン、矢板を撤去する	一般車両の交通に注意して					一般車両の監視員を配置の上、速やかに撤去する	○	○	1				